

出版100周年『赤毛のアン』の舞台を訪ねて 中編

プリンスエドワード島

「世界でもっとも美しいところ」



アン役の女の子と筆者

6月半ば。グリーン・ゲーブルズのりんごの花がちょうど満開でした。孤児院にいたアンが一人で置き去りにされた鉄道駅から、初めてグリーン・ゲーブルズに着いたのも6月。りんごの花が白く咲きあふれていたころでした。

ハウスには各国からの見学者が押しかけていました。地元カナダの各地、お隣のアメリカ、ヨーロッパは主に東欧の国々、アジアは日本、中国、韓国。日本からは若い女性と中年の婦人が目立っています。

日本でも、NHKの番組を始め、100周年を記念するいろんな企画が生まれ、旅行社はキャンペンツアーを催しています。

訪れが遅い北国カナダの夏。“腹心の友”ダイアナと通った「恋人の小径」は新緑のまっただなか。木々のこぼれ日が路面に映り揺れています。高い樹木が密集した「お化けの森」では、倒れた古木がいかにもその趣をかもし出しています。

グリーン・ゲーブルズの家は作者モンゴメリーの親戚が実際に住んでいたもので、現在は小説の記述どおりに再現され100年前の息遣いが感じられます。2階のアン部屋の壁には明るい色の少女用ベッドの他、マシューがアンに贈った袖がふくらんだパフスリーブの衣装もかけてあります。別棟(むね)の納屋には当時の農作業道具が陳列され、中庭に置かれた馬車が100年前を忍ばせていました。

手前の広い駐車場には大型の観光バス4台と30台ほどの自家用車。「シーズンになると、この2倍から3倍になるんです」と係員。受付の建物の中ではモンゴメリーが使ったタイプライター等の展示があり短時間の紹介映画も見られるようになっています。



グリーン・ゲーブルズ・ハウス

キャベンディッシュ(アボンリー)村には、作者ルーシー・モード・モンゴメリーの生家、また彼女が働いていた郵便局や墓地もあります。やや離れたところにはアンが名づけた「輝く湖水」、その向かいにはグリーン・ゲーブルズ博物館が緑のなかに浮かび上がっていました。

島は「波間に浮かぶゆりかご」の形をしています。セントローレンス湾に面したキャベンディッシュへは、島の反対側にある州都シャーロットタウンから車で約40分。道路の両側には、赤土と緑ののどかな田園風景が広がり、まさにアンをして「世界でもっとも美しいところ」と言わしめた光景です。

島に着いた翌々日からは、物語の舞台の本場でのミュージカル公演が始まりました。ガラ公演に先立って、全キャストが揃ってのサイン会と記者会見が行われました。私は前日のプレ公演の感想と日本での「アンブーム」を伝えた後、主役のアン、準主役のマシューにインタビューしました。

アン(アミー・ワリス):「記念すべき年の主役をいただいて光栄です。おしゃべりでチャーミング。そして勇気もある。どこまでも希望を失わないアンは永遠に私たちの「生き方の鏡」だと思います」

マシュー(サンディ・ウィンスビー):「高齢になるにつれて、身体だけでなく心まで枯れてしまう人も多い。年を取るほどにアンのような「心のみずみずしさ」が必要になってくると思う。作品は少女たちだけでなく、すべての大人に通ずることを訴えたい」

州政府は本年を「アン100周年の年」と決めています。空港や街のあちこちにポスターや案内板が目につき、書店には「アン特集」の本や写真が並べてありました。



清水武 Takashi Shimizu  
旅行作家 世界文学紀行  
を定年後のライフワーク  
に作品の舞台を訪ねて  
いる。東京都・昭島市在住  
<http://homepage2.nifty.com/donky/>